

會社側では大川町肥後俱樂部に事務所を置き若津支店長大幸田支店長並に本社員等と協議の結果海員組合三池支部長(大幸田支店長と船長の間柄)を動かし出帆せしめんとしたるも船員の團結固くして之を拒絶せられたので、更に下關より來接したる臨時船員七名の雇入手続を大川町役場に申請したるも海軍部三池出張所よりの命(自分の間船員雇入手続を保留すべし旨)ありとして受進せられず。かくて會社側は一方荷主の嚴重なる要求に堪えず長崎港院泊中の座船明石丸を入港せしめ第一太田丸の荷物を之に移送せんとして二十五日早朝より開始中昨日午前九時過ぎ等議解決の報ありて停船解除を見るに至つたのである。

福岡地方の状況

二十二日夜本部よりの電報指令(交渉決裂停船命令)に接し

大津員組合福岡支店では二十三日早朝下關支店に等津本部を置くと共に門司支店(門司市東區町所在)に等津本部を設け其の總指揮に門司支店長久保田長一、連絡情報部長に川口支店西岡若太郎、等津員に門司支店叶淵四郎以下夫々の部署を定めて陣容を整へ各地方との連絡に當つたのである。かくて組合側には尼ヶ崎汽船の寄港地として主要なる下關、門司、若松就中下關に主力を注ぎ即ち前編の如く、船運丸(五原丸)一心丸及び咲花丸の四隻を二十三日中下關港に於て停船せしめ、更に翌二十三日には天正丸、龍仙丸の二隻を加へたのである。

爾して二十三日は戸畑より來接したる休職船員約四十名を下關に派遣し續いて二十四日朝に至り日本石炭坑夫組合、製鋼労働小倉支部並にセント労働門司支部等各地組合よりの應援を下關に増派したのである。